

あしたのために

四日市市立朝明中学校
1年生学年通信
令和元年10月28日(月)
その72 文責(浅野)

自主自立!

音楽は人と人をつなぐ

～合唱のすばらしさと合唱の持つ力、可能性を学んだ～

先日の土曜日授業で、暁高校の合唱部の演奏を聞きました。何よりも驚いたのが高校生の作り出す「音」です。暁高校合唱部の作る音は、とても豊かで伸びのある『澄んだ音』でした。一人ひとりが、正しい姿勢で豊かな息に支えられた声を出せるので、音に豊かな響きがあり、しかも正確な音程を作り出せるのですね。「声」というよりむしろ「響き」で歌っていたような感じでした。その響きが音楽的に表現力のある豊かな音色で、美しかったですね。また、一人ひとりが積極的に音楽を表現していて、それがひとつの合唱の音として(自然に)そろろう、ということです。全員が自発的に音楽を作り出し、その互いの歌・音を通じてお互いが影響し合い高め合っていく…これこそが合唱の持つ最大の魅力なのですね。

「自分の出す音に責任を持つ」こと、「出したい音のイメージを持って歌い出す」こと…音楽への共感がなければ人の心を打つ音楽は作れません。当たり前のことなのですが、改めてそれを感じました。

暁高校合唱部のみなさんは、何より音楽を愛し、音楽を心から楽しんでいましたよね。いつの間にか聞いている我々もその世界に引き込まれていきました。まさに音楽は人と人をつないでくれるのですね。



「虹」を紹介します…

暁高校合唱部が最後に歌ってくれた「虹」という合唱曲は、2006年の第73回NHK全国学校音楽コンクール中学校の部課題曲として作曲されました。森山直太郎さんの作品です。

「別れの季節は出会いの季節でもある」と、これまで過ごした仲間や親友との別れを、人生の次のステージへのスタートだ、これからまた素敵な出会いが待っているよ。と励ましてくれているような曲です。

空にかかる「虹」はあっという間に消えてしまいます。輝く青春時代も同じです。だからこそ、いまを大切に生きていきたいですね。

虹

作詞・作曲 森山直太郎・御徒町胤
編曲 信長貴富

広がる空に 僕は今思い馳せ
肌の温もりと 汚れたスニーカー
ただ雲は流れ

きらめく日々に 君はまた指を立て
彼のさざめきと うらぶれた言葉
遠い空を探した

喜びと悲しみの間に 束の間という時があり
色のない世界
不確かな物を壊れないように隠し持っている

僕らの出会いを 誰かが別れと呼んだ
雨上がりの坂道
僕らの別れを 誰かが出会いと呼んだ
時は過ぎいつか

知らない街で 君のことを想っている
風になつた日々の空白を
空々しい歌に乗せて

未来を指した旅人は笑う
アスファルトに芽吹くヒナゲシのように
僕らの喜びを 誰かが悲しみと呼んだ
風に揺れるブランコ

僕らの悲しみを 誰かが喜びと呼んだ
明日へと続く不安げな空に
色鮮やかな虹が架かっている

僕らの出会いを 誰かが別れと呼んでも
君と僕に光を残して
君と僕に光を残して